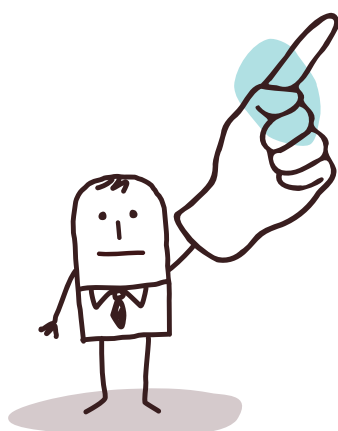


[特集]

自殺発生



これが対応心得だ



自殺が生じた後の対応や当事者のケア、再発防止対策のことを、自殺予防学では自殺の三次予防という*¹。河西によれば、この三次予防には、①事故現場における対応、②ご遺族への対応とケア、③当事者となった職員への対応とケア、④当該の自殺事故の振り返りと、過去の自殺事故を含めた自殺事故分析、⑤再発防止対策があるという。

不幸にして自殺が起きてしまった後に遺されたすべての関係者への影響を最小限度にするためには、こころのケアを行うことが必要*²だが、事故直後の混乱と処理が押し寄せるなか、当事者となった職員への対応とケアまで行き着かないのが現状ではないだろうか。

本特集は、不幸にして病院内で自殺事故が起こってしまった際、遺された人々、スタッフに対して円滑にケアが実施されることを目的とした。管理職にあたる方は、実践の参考にしていただきたい。

〈企画〉

中村創（なかむらはじめ） 医療法人資生会千歳病院・看護主任／精神看護専門看護師、保健師



2003年に日本赤十字北海道看護大学を卒業、浦河赤十字病院に勤務。内科外科急性期病棟を経て精神科病棟で働く。日常生活支援、SST、退院支援などに従事。それに加え地域での精神保健活動にも参加する。浦河赤十字病院退職後、2年間デイサービス勤務で介護の現場に身を置き、2009年より現職場である千歳病院に勤務。2015年に札幌市立大学看護学研究科博士前期課程を修了、精神看護専門看護師を取得。3人の子供たちと遊ぶ時が、唯一退行を許される時間であるが、その時間が確保できないのが悩み。

〈協力〉

三上剛人（みかみたけひと） 吉田学園医療歯科専門学校救急救命学科・学科長／救急看護認定看護師



日本救急看護学会では教育委員、JNYEC（外傷看護コース）インストラクター、FA（ファーストエイド）インストラクターを務める。医療教授システム学会理事、救急看護認定看護師会副会長。著書に、『緊急・応急処置Q&A』（日本看護協会出版会）、『ナースならできておくべきすぐやる技術』（学研メディカル秀潤社）ほか。